

令和元年6月9日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02672

研究課題名(和文) ニジェール・コンゴ語族における動詞構造の形態・統語論比較研究

研究課題名(英文) Morpho-Syntactic Studies on Verb Constructions in Niger-Congo Languages

研究代表者

小森 淳子 (Komori, Junko)

大阪大学・言語文化研究科(言語社会専攻、日本語・日本文化専攻)・准教授

研究者番号：10376824

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アフリカの最大語族であるニジェール・コンゴ語族の動詞の形態と統語構造に関して比較研究を行い、その特徴を明らかにすることを目的とした。特に、動詞の受動形と受動文に焦点をあて、バントゥ諸語にみられる動詞派生形と、動詞が形態変化しない西アフリカの諸言語における受動文の類型について考察した。動詞の形態変化の衰退という語族全体の変化の方向性について検討し、それに伴う統語構造と態の関係、動詞の自他交替の関係を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、ニジェール・コンゴ語族の動詞の形態と統語構造に関する類型論的な研究をおこなうものである。言語研究においては、広く世界の言語を対象にしなければ、その本質の解明には届かない。アフリカの諸言語については、研究されている言語自体が少なく、解明されていない点も多い。アフリカの諸言語の記述研究は、日本でほとんど知られていない言語の知見を深めるという点で意義深い。また、「受動文」という特徴を取り上げてアフリカの言語の特徴を研究することは、「受動文」という、よく知られた言語現象についての知見を深めることになり、言語学的にも意義深い知見を与えることになる。

研究成果の概要(英文)： The aim of this project is to examine the verb derivational forms and construction types in the languages of the Niger-Congo language family in Africa. Especially we focused on the passive forms and passive constructions and we found that three types of passive constructions are normally recognized in Niger-Congo languages: 1) Typical passive constructions, as in Bantu languages, which have derivational passive verbs. 2) Impersonal passive constructions, widely attested throughout the family from West African languages to Bantu languages, which have an impersonal subject in an active sentence with a patient noun as an object. 3) Other "passive-like" constructions, found in the Mande and Gur language branches, which have transitive/intransitive verbs with a patient noun as a subject and an arbitrary agent noun as an adjunct. We suspect that there would have been a historical change from 1 to 3.

研究分野：アフリカ言語学

キーワード：ニジェール・コンゴ語族 動詞派生形 受動態 非人称受動文 自他交替 バントゥ諸語 ヨルバ語
バンバラ語

1. 研究開始当初の背景

アフリカには 2000 を数える言語があるとされているが、その 3 分の 2 の言語がニジェール・コンゴ語族に分類されている。下位の語派・語群の分類も含めて、語族全体の系統関係は不明な点も多いが、サハラ以南に広く分布する諸言語を大きくとらえるには有効的な分類である。ニジェール・コンゴ語族を特徴づけるのは、基礎語彙と名詞クラス、そして動詞の派生という 3 つの大きな特徴である。このうちもっとも変化に富み多様であるのは、動詞の形態とそれに関する統語構造であり、その多様性を形態的、統語的観点から類型的にとらえ、その特徴を解明することが求められている。

ニジェール・コンゴ語族の動詞の形態とそれに関する統語構造の類型をみると、その両極に位置すると考えられるのがバントゥ諸語とヨルバ語である。バントゥ諸語(赤道以南全域に分布)は典型的な膠着型の言語で、多くの動詞派生接辞をもち、複数の派生接辞を動詞語根に膠着させて動詞を変化させる。一方、ヨルバ語(ナイジェリア南西部に分布)は動詞に付着する接辞をもち、基本的には動詞が変化しない孤立語的類型を示す。バントゥ諸語とヨルバ語は、下位の分類であるベヌエ・コンゴ語派に属しており、語族全体の中では系統的にも地理的にも比較的近い言語であるが、それでもこのような両極に位置する形態的類型を示していることは、この語族における動詞の形態と統語的な特徴が多様であることを示している。そして、この両極の間にニジェール・コンゴ語族の諸言語を並べて比較する類型的なスケールを想定することができるのである。他動性や態に関する事象について、形態や統語的な特徴が大きく異なる言語を比較することによって、語族全体の動詞の形態と統語に関する類型的な特徴を捉えることができると考えられる。

これまで、国内においてはアフリカ諸語の中でも、バントゥ諸語の研究は盛んに行われてきており、バントゥ諸語の動詞派生形の共同研究において、特に適用形や使役形の形態と統語に関する分析が進められてきた。また、ヨルバ語の文法研究や、ヨルバ語をはじめ西アフリカの諸言語に特徴的な「動詞連続構文」の構造と意味に関する研究、さらにニジェール・コンゴ語族の中でも特異な特徴を示すマンデ語派の中の代表的な言語であるバンバラ語についての研究もおこなわれている。国内外において、アフリカ諸言語の個別の記述研究は進んでいるが、ニジェール・コンゴ語族全体を視野にいれて、統語特徴を類型的に俯瞰しようとする試みは、まだほとんど見られない。その膨大な数の言語すべてを記述、研究することは不可能であるが、これまでの研究の蓄積や、海外の言語データを資料として加え分析することによって、ニジェール・コンゴ語族の動詞と統語に関する類型的特徴について包括的な理解が得られると考えられる。

2. 研究の目的

上記のような背景から、本研究ではアフリカ最大の語族であるニジェール・コンゴ語族の動詞の形態と動詞を中心とする統語構造に関する類型論的特徴を明らかにすることを目的としている。これまで研究を進めてきたバントゥ諸語とヨルバ語、バンバラ語を中心として、他の言語の資料も加えながら、動詞の形態と統語に関する比較研究を行う。膠着度の高い動詞構造から孤立語タイプの動詞構造にいたる動詞形態の特徴を比較して、それぞれの動詞と項の関係を、他動性や態に関する統語的な観点から分析し、多様性に富むニジェール・コンゴ語族の動詞と統語に関する類型論的特徴の解明をめざす。

具体的には、以下のような類型論的特徴に焦点をあて、動詞と統語構造についてさらに深く明らかにすることを目的とした。

1) 使役構文の動詞構造・統語構造と項の関係を明らかにする。

バントゥ諸語では、派生接辞を用いて動詞の使役形を作り、被使役者や道具を表す名詞を直接目的語としてとる。一方、ヨルバ語やバンバラ語では動詞に使役形がなく、ヨルバ語では「動詞連続構文」を用いて、バンバラ語では複文の構造で使役を表す。使役構文において、動詞がどのような構造であらわれ、どのような項をとるか、という動詞と項の関係を統語構造との比較において明らかにし、類型化する。

2) 受動態の統語構造と項の関係を明らかにする。

バントゥ諸語では、派生接辞を用いて動詞の受動形を作り、「対象」の名詞が主語になるという統語操作がみられる。一方、ヨルバ語やバンバラ語では動詞に受動形がなく、ヨルバ語では「対象」の名詞は目的語にとどまったままで、主語を不定人称代名詞にして受動態を表す。バンバラ語では、動詞の形態は同じままで「対象」の名詞が主語の位置にくる(「行為者」は任意で前置詞句で表されることがある)。受動態を表す構文において、どのような

動詞がどのような構造であらわれ得るのか、またどのような項をとるのか、という動詞と項の関係を統語構造との比較において明らかにし、類型化する。

3) 動詞の他動性と統語構造の関係を明らかにする。

バントゥ諸語は動詞の派生形が豊富なので、動詞の他動性は派生形によって表示され、いわゆる「自他対応」が見られる。一方、ヨルバ語やバンバラ語では、動詞の派生形がなく「自他対応」は見られないが、英語の“open”のように、他動詞としても自動詞としても機能する動詞がある。ヨルバ語ではそのような動詞は「中間動詞」に限られるが、バンバラ語は、上記2)の受動態の構造まで含めると、「殺す」というような他動詞でさえ「殺される」という自動詞として機能し、動詞がもつ他動性の範囲が最大化されているといえる。動詞のもつ他動性と形態、統語構造を比較して明らかにし、類型化する。

3. 研究の方法

具体的な研究方法としては、現地調査をおこなってデータを収集し、これまでの調査、研究で得られた知見を整理し、文献から得られるデータと総合して分析し、包括的な議論と討論をおこなうという方法をとった。現地調査については、分担者や協力者をタンザニアに派遣して、主にバントゥ諸語の記述調査に努めた。文献調査においては、ニジェール・コンゴ語族全般の文献を購入・入手し、データ収集と分析に努めた。また、ロンドン大学や東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所などでおこなわれているバントゥ諸語研究のプロジェクトと共同して研究を行ない、共同執筆、共同発表などをおこなった。

4. 研究成果

バントゥ諸語については、アフリカでの現地調査で得られたデータや文献資料からのデータを分析し、動詞の形態および派生形のバリエーションについて、「マイクロバリエーション」プロジェクトと連携しながら、そのその多様性を記述した。特に受動形に焦点をあて、その形態のバリエーションと統語的な特徴について明らかにした。

派生形の発達したバントゥ諸語であるが、「受動文」を表すのに受動形が生産的に用いられるケースは衰退しているようである。「受動文」に相当する文は、動詞は原形のまま、主語を「非人称主語」にする「非人称受動文」(impersonal passive)が発達してきており、特に、バントゥの西部地域においてこの形式がよく見られ、また、徐々に南部、東部にも非人称受動文の形式が広がってきているようである。また、派生形を用いる場合でも、典型的な「受動形」ではなく、状態形や自発形など、他の自動詞化した派生形が見られる場合があり、バントゥ諸語における受動形と受動文の多様性の一端を明らかにした。

バントゥ諸語以外の言語においては動詞が形態変化することが少なく、本研究で対象としたヨルバ語やバンバラ語のように、受動形をもたない言語が多い。形態変化の乏しい言語においては、「非人称受動文」が一般的であるが、バンバラ語では「非人称受動文」も見られず、動詞の自他交替によって「受動文」に相当する文が表される。本研究では、バンバラ語の動詞の自他交替について分析を進め、自動詞文が「受動文」に相当する意味までカバーして表すことを明らかにした。このような動詞の自他交替は、ニジェール・コンゴ語族では、バンバラ語が属するマンデ語派とグル語派に見られるようであり、隣接するこれらの語派の地域的な特徴のようにも見えるが、これがニジェール・コンゴ語族全体に伝播する、あるいは関連する特徴かどうかについて、歴史的な変化の方向性から考察した。歴史的な変化の観点からの分析については不十分な点があり、次に続く科研費のプロジェクトに受け継ぐ課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 7件)

小森淳子(2019)「バンバラ語の自他交替と自動詞の特徴について - 「受動文」から考察する」、『スワヒリ&アフリカ研究』30号、pp.33-48. 査読無.

小森淳子(2018)「ニジェール・コンゴ語族における動詞派生形と「受動文」」、『言語文化研究』44号、pp. 33-53. 査読有.

GIBSON, Hannah and Nobuko Yoneda.(2018) "Functions of verb reduplication and verb doubling in Swahili." *The Journal of Asian and African Studies*,96. pp.5-27. 査読有.

小森淳子(2017)「バンバラ語のアクセントについて」、『スワヒリ&アフリカ研究』28号、pp. 91-108. 査読無.

米田信子(2017)「ヘレ口語とスワヒリ語の限定を表すとりにたて小辞に関する試論」、『スワヒリ&アフリカ研究』28号、pp. 72-90. 査読有.

米田信子(2017)「日本語の視点からアフリカ諸語を見る - 日本語とバントゥ諸語の対照研究」、『適塾』50巻、pp. 45-52. 査読無.

小森淳子 (2016) 「アフリカ諸語研究最前線」、『生産と技術』68 巻 4 号、pp.83-86. 査読無.

〔学会発表〕(計 13 件)

YONEDA, Nobuko and Yukiko Morimoto. “Proto-Bantu subject and topic.” International Conference on Reconstructing Proto-Bantu Grammar @University of Ghent, Ghent, Belgium. (2018 年 11 月 22 日)

YONEDA, Nobuko and Judith Nakayiza. “Multiple object constructions in Ganda.” The 9th World Congress of African Linguistics. Mohammed V University of Rabat. Rabat, Morocco. (2018 年 8 月 26 日)

MORIMOTO, Yukiko and Nobuko Yoneda. “Cross-Bantu Variation in the Properties of Subjects.” The 9th World Congress of African Linguistics. Mohammed V University of Rabat. Rabat, Morocco. (2018 年 8 月 25 日)

YONEDA, Nobuko and Yukiko Morimoto. “Degrees of Topicality in Bantu Subjects.” The 7th International Conference on Bantu Languages. @The River Club Mowbray Cape Town, South Africa. (2018 年 7 月 10 日)

YONEDA, Nobuko and Kumiko Miyazaki. “Exclusive particles ‘only’ in Swahili - *tu* and *peke yake*” The 7th International Conference on Bantu Languages. @The River Club Mowbray Cape Town, South Africa. (2018 年 7 月 9 日)

YONEDA, Nobuko. “Exclusive focus sensitive particles in Herero (Bantu R31)” The 20th International Congress of Linguists. @ The Cape Town International Convention Centre, South Africa. (2018 年 7 月 5 日).

米田信子・初田漢. 「スワヒリ語ザンジバル方言における移動動詞としての *pandisha* と *shusha* - 季節風による「上下」の関係 - 」日本アフリカ学会第 55 回学術大会 .北海道大学 .(2018 年 5 月 27 日)

小森淳子.「バンバラ語の動詞の「他動性」に関する考察 — 他動詞と自動詞を分けるもの」、日本アフリカ学会第 55 回学術大会、2018 年 5 月 27 日、北海道大学

米田信子「スワヒリ語と民族語の言語接触による文法レベルの影響」日本言語学会第 154 回大会、2017 年 6 月 24 日、首都大学東京

小森淳子.「ニジェール・コンゴ諸言語の動詞の態 (Voice) に関する類型論的考察」日本アフリカ学会第 54 回学術大会、2017 年 5 月 20 日、信州大学教育学部

米田信子「ガンダ語の多重目的語構文 - 3 つの目的語の現れ方」日本アフリカ学会第 54 回学術大会、2017 年 5 月 20 日、信州大学教育学部

米田信子「バントゥ諸語の関係節に見られるマイクロバリエーション」日本言語学会第 153 回大会、2016 年 12 月 3 日、福岡大学

Yoneda, Nobuko. “Noun-modifying construction: the forms and the head-modifier relation”, The 6th International Conference on Bantu Languages, 2016 年 6 月 22 日、ヘルシンキ大学、フィンランド

〔図書〕(計 4 件)

Shinagawa, Daisuke and Yuko Abe (eds.) (2019) *Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu*. ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies, pp.439-ix. (Komori, Junko “Kerewe (JE24)”, Yoneda, Nobuko “Matengo (N13)”, Nakayiza, Judith and Nobuko Yoneda “Ganda (JE15)”)

Tsunoda, Tasaku (ed.) (2018) *Levels in Clause Linkage: A crosslinguistic survey*, De Gruyter Mouton, pp.892 (Yoneda, Nobuko “Herero.”) ISBN 978-3-11-051677-7

Pardeshi, Prashant and Taro Kageyama (eds.) (2018) *Handbook of Japanese Contrastive Linguistics (Handbooks of Japanese language and linguistics 6)*, De Gruyter Mouton, pp.722 (Yoneda, Nobuko “Noun-modifying constructions in Swahili and Japanese.”) ISBN 978-1-61451-407-7

Van der Wal, Jenneke and Larry M. Hyman (eds.) (2017) *The conjoint/disjoint alternation in Bantu*, De Gruyter Mouton, pp.458 (Yoneda, Nobuko “Conjoint/ Disjoint Distinction in Matengo (N13)”) ISBN 978-3-11-048838-8

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名： 米田 信子

ローマ字氏名： YONEDA, Nobuko

所属研究機関名： 大阪大学

部局名： 言語文化研究科
職名： 教授
研究者番号(8桁): 90352955

(2)研究協力者

研究協力者氏名： 安部 麻矢
ローマ字氏名： ABE, Maya

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。